

ハワイからの研修生を紹介!

西原町ではこれまで、ペルー、ブラジル、アルゼンチンの南米3か国へ移住した子弟(子孫)を研修生として受け入れしてきました。今年度は、本町初となるハワイから子弟研修生を受け入れます。10月から11月の2か月で言語・文化・地域交流をして、沖縄、西原について学びます。

小橋川 シゲオ トッド(Todd Shigeo Kobashigawa)

年齢■32歳 性別■男性 出身■アメリカ合衆国 ハワイ州
職業■家族で園芸業を営む
特技■エイサー ハワイのエイサーグループで10年活動
西原町との繋がり■父方の祖父が我謝出身の日系4世
1世の曾祖父は1907年にハワイへ移民として渡航した

Q1. 得意なこと
A1. 園芸

Q2. 好きなもの
A2. エイサー、獅子舞

Q3. 沖縄でやってみたいこと
A2. ハワイのエイサーと獅子舞のサークルで活動しているので沖縄で本場を体験したいです。
また園芸業を営んでいるので植物について学びたいです。

Q4. メッセージ
A2. 西原町のたくさんの方と関わり、たくさんのことを学びたいです。
帰国後は経験したことを自身の所属するサークルやハワイの人に広めたいです。

【お問い合わせ】
総務課 秘書広報係
☎098-945-5011



布哇(ハワイ)への移民

今年四月、一九四一年に出版された「布哇沖縄県人発展史」が、和歌山市民図書館で保管されていることが分ったとの報道がありました。その内容は、沖縄からハワイに渡った一世らがサトウキビ農場で支え合い、過酷な労働に耐えながらも道を切り開いてきた歴史や二世らが多方面で活躍し始めた様子などが記されている貴重なものであることが分かりました。

当時の海外集団移民の背景には、一八九九年(明治三二)から一九〇三年(明治三六)にかけて個人の土地所有権が確立し地租納税が個人に課され、土地を売買して移民費用にあてることができるようになったことや、また一八九八年(明治三二)に沖縄の一般県民に徴兵令が施行されたことにより、徴兵回避のために家の跡継ぎなどの男子を移民させる例も多かったと言われています。

一八九九年十二月五日、沖縄から初めて海外集団移民が、當山久三の幹旋により那覇港から出発し、横浜港でチャイナ号に乗船してハワイへ向かいました。翌一九〇〇年(明治三三)一月八日、ホノルル港に到着、オアフ島のサトウキビ耕地で二十六人が契約移民として働き始めました。その二十六人の中には、字呉屋出身の呉屋次良(二十五才)が含まれていたという記録※が残っており、当時海外へ移民で出ることはその前例がなく、大変な決意を要したと考えられます。

移民たちは、現地の言葉で「ルナ」



平成27年 西原町系3世のデービッド・ユタカ・イゲ州知事の歓迎会(イゲ元州知事 前列1列目左から6人目)



平成2年「西原町国際親善の集い」にてハワイ移民者と親戚との集合写真(提供:屋良勝彦さん)

と呼ばれる監督が厳しく監視する中で重労働に明け暮れました。やがてプランテーション労働で得た資金をもとに、養豚業に転身または市街地でレストラン経営などのビジネスを始める者も出てきました。ハワイには、日系移民の出身地ごとに県人会が長きにわたり組織され、今でも活発に活動している県人会も多くあります。その中で、沖縄出身者の団体は、県人会ではなくハワイ沖縄連合会という名称を使っています。もともと沖縄から移住してきた人達、出身地の市町村単位のクラブを作り、同僚が協力し合う組織を作っていました。それが、まとめて一九五一年に組織された団体が沖縄連合会で、開設当時は一世の出身地である沖縄の戦後の困窮を援助する役割も大いに重要でした。

現在は沖縄県との交流事業や、ウチナーンチュとしての文化の継承に力を入れており、毎年九月初めのレイバーデーの週末に、「オキナワフェスティバル」というウチナーンチュの一大イベントをワイキキのカピオラニ公園で開催しています。二〇二五年には、沖縄から最初の移民がハワイに渡ってから百二十五年を迎えるにあたり、一世の苦難の歴史を継承し沖縄の文化を発信していく様々な記念イベントを開催していくとのことです。

※1 西原町史 第六巻 資料編五「西原の移民記録」

お問い合わせ:文化課 文化財係
☎098-944-4998

8月26日 西原東中 ビーチバレーで全国大会出場

西原東中学校の女子バレー部が、8月に神奈川県で開催された第15回全日本ビーチバレーボール4人制中学選手権大会に出場しました。選手たちは7月に行われた沖縄県大会で見事に優勝し、全国の舞台へ県代表として挑みました。

全国大会では、予選リーグで1勝1敗となり2位チームのトーナメントに進出。しかし、残念ながらトーナメント1回戦敗退となりました。

大城寧音キャプテンは「全国で1勝できたことが本当に嬉しかった」と、チーム一丸となって挑んだ経験を笑顔で話しました。



8月29日 6年ぶりの畜産共進会 待ちに待ったモ〜



町長賞に輝いた「かなこ」

西原さわふじマルシェにて、6年ぶりに西原町畜産共進会が開催されました。共進会とは、農家が丹精を込めて育てた牛を一堂に集め、外観や体格などを審査してより優れた牛を決めるイベントです。町内から農家自慢の牛15頭がエントリーしました。

審査の結果、栄えある西原町長賞を受賞したのは、園田博章さんの牛「かなこ」でした。バランスの取れた体格と健康的な状態が高く評価されました。

園田さんは「大事に育てた牛が町長賞をいただけて、嬉しいです」と喜びを語りました。

各部門の優等賞の入賞者		
【部 門】	【出品者】	【名 号】
若雌1類	国場 正典	ほたる
若雌2類	與那嶺正彦	ふくひこ
子牛1類	宮城 悟	りんこ22
子牛2類	園田 博章	かなこ
成 雌	桃原 榮一	ふくひさ2

9月3日 西原小学校 人権について考える特別授業

西原小学校で2年生、4年生、6年生を対象に人権教室が行われました。西原町の人権擁護委員6名が講師を務め、学年に合わせたDVDを視聴し「いじめをなくすにはどうしたらいいの?」をテーマに授業。

授業では「いじめで一番つらいのは、誰も助けてくれないこと。いじめられた子をひとりにしないで手助けする勇気」と話し、人権はみんなが幸せに生きていくために守るものと説明されました。

いじめの問題や他人を助ける勇気の大切さについて考える機会となりました。



2年生のクラスで授業をする人権擁護委員の慶田元順子さん(右)と祖慶聖子さん(左)

9月3~6日 西原町に女子相撲選手が合宿にやってきた!! ~スポーツツーリズムを推進~



すり足を教える松本選手



児童5人と対戦する古閑選手

東海岸地域サンライズ推進協議会による「スポーツツーリズム構築事業」の一環として、陽光セントラルグループ女子相撲部の古閑詩織選手と松本渚選手を招き、9月3日から6日にかけて西原町で合宿を受け入れました。合宿は西原さわふじマルシェ内のさわふじ広場を練習会場に、地域住民や町内の小学生、町役場職員と相撲を通して交流しました。

西原南小学生と相撲教室で交流

4日には、西原南小学校1年生を対象にした相撲教室が開催され、児童たちはシコ踏みや股割りといった相撲の基本を体験。その後、選手と児童の相撲対決も行われ、笑顔いっぱいでの相撲の楽しさを学びました。児童たちは、普段なじみのないスポーツのトップ選手と直接触れ合うことで、挑戦することの大切さを学び、スポーツに対する興味がさらに高まったようです。

町役場職員との懇親相撲

5日には、西原町の職員との懇親相撲が行われました。力自慢の職員たちが次々に挑戦し、選手たちとの真剣な取組が繰り広げられました。特に、町長の勇姿に会場は大いに盛り上がり、スポーツを通じた交流の場となりました。



さわふじ広場での懇親相撲



古閑 詩織 選手 松本 渚 選手